通訳者
INTERVIEW

どんな場面でもプロ意識を持って聞きやすいアウトプットを心がける

会議通訳者　井上久美さん

インターネット、新聞等で事前に情報収集を

通訳者としてのキャリアはもちろん、大学教授や講師業、企業研修、執筆業など幅広く活躍する井上さんは、今回の「世界ICTサミット」で通訳チームのチーフを担当。それだけでなく、通訳・翻訳サービスや人材育成を行う自身の会社のネットワークをもとに、他の同時通訳3名と逐次通訳2名の人選も行った。

「自分自身が現役で通訳をやっているので、この分野では誰がよいかといった適材適所の判断がしやすいんです。また、チームで仕事をするには、実績表だけでなく、その人の通訳スタイルや性格も大事。気持ちよく一緒に仕事ができる人、柔軟に対応できる人にお願いしています。そういう人は引く手あまたですが（笑）」

通訳は、30分の講演は2人で途中交代して行い、5～6人のスピーカーが登壇するパネルディスカッションは3人で分担し、2時間程度を20分交代制で行った。井上さんは2日間で11の講演・セッションを担当。すべてが異なるテーマであるため、準備には時間がかかったと言う。

「1つのテーマを1日で通訳するほうが楽ですね。特に5つのパネルディスカッションでは、それぞれ5～6名のエキスパート、それもトップの方々がいらしていますし、2日間で40人近くの頭の中を理解しなければいけないのが非常に大変でした」

事前の資料は出たものも出ていないものもあったため、富士通、NEC、IBMといった講演企業の動向を知るために、インターネットや新聞記事で情報収集を行い、ノートにまとめたり、用語集を作成した。

「テーマに関する話題、世の中の流れに敏感になることが大事ですね。さらに、会議当日に出てきたワードを足して、次の仕事に活かすためにメモしておきます」

開催前日や当日に資料が差し替えになることも珍しくない。加えて、スピーカーとの打ち合わせ時間が十分にとれないこともある。

PROFILE
（いのうえ・くみ）
（株）ヒア＆ナウ代表取締役社長（http://www.hereandnow.co.jp）。北陸先端科学技術大学院大学客員教授・東京工業大学非常勤講師。慶応義塾大学英米文学科在学中より現在まで会議通訳者として活躍。UNESCO、OECD、BISなど国際機関での同時通訳を多数手がける。著書に『中学英語で話せるようになる6種類の口ぐせ』（アストラ出版）他。会議通訳者養成講座も開講。